



情報交換を行いながら、 円滑な送迎事業を！

第十二回北部九州三県合同通院送迎事業研修交流会

九月九日(日) 十時三〇分より、特定非営利活動法人通院送迎センター「ステップ福岡」(以下「ステップ福岡」)主催で「第十二回北部九州三県(福岡・佐賀・長崎)合同通院送迎事業研修交流会」が福岡市の福岡リーセントホテルで開催されました。

今回は、各事業所の役員を初め、ボランティアさん総勢四十七名が集まり、「さわやか」から事務局を含め、十名が参加しました。

司会は「ステップ福岡」のボランティア安東千津代氏で、湯浅晴江理事の開会の挨拶で始まりました。

ボランティアの皆様

お一人お一人のお陰

主催者の挨拶として「ステップ福岡」の落合律子理事長より「本研修会で、通院事業の課題や問題点について考え、情報交換を行いながら、円滑な送迎事業に努めて参りました。そして今日、十二回を迎



NPO法人通院送迎センター「ステップ福岡」
落合律子理事長



NPO法人「NPO博多の風」
大庭宗一理事長

えられたのも日頃より心温かく安心、安全で送迎を続けて頂きましたボランティアの皆様、お一人、お一人のお陰だと思っております」と述べられました。

第一部は、『明日への一言』と題して、特定非営利活動法人「NPO博多の風」大庭宗一理事長より講演がありました。

大庭宗一氏は「博多のおいしやん」ことラジオパー

福祉有償運送に係る実地調査無事に終わる

八月二十三日(木)の九時より福祉有償運送に係る実地調査が小倉事業所で行われました。

北九州市保健福祉局地域支援部のちをつなぐネットワーク推進課の熊谷哲成氏がお見えになり、活動報告書や車両点検表などきちんと整理されているか、どうか調査されました。「さわやか」からは山田

やり続けることは一番難しいこと

大庭氏は「私のNPO組織は十二年目です。ここま

でもお馴染みの方で現代社会に活を入れるような熱い博多弁でトークを展開し、そのトークに魅了された幅広い年代の方々から支持されている方です。

福祉有償運送に係る実地調査無事に終わる

理事長と梶原常務理事と貞谷事務局長が対応しました。要望として意見交換会を

集について協力をしてほしいとお願いました。すべての事務処理の調査が終了し、車両にステッカーを貼りつけがしてあるかなどを確認して十時十五分に終了しました。

明日を良い日にする為の三原則

- ①人のせいにしらない
- ②言い訳をしらない
- ③出来ない理由を探さない

明日を良い日にする為の基本的な考え方

- ①物事はシンプルに考える
- ②我慢と継続をフラスする
- ③お互いの存在を認める
- ④幹と枝葉
- ⑤無いものおだきをしない
- ⑥何事にも少しだけを心がける
- ⑦自分に負けなようにしよう

とだと思いません。特に命に関わる仕事は自己満足で終わらず、次に伝えていく事が一番大事だと思います。改めて、落合理事長を初め各県の皆さんがおられますが、今までの積み重ねは大変な事だったと感じています」と述べられ、講演が始まりました。

その中より抜粋して記載

明日を良い日にする為の三原則や考え方について話がありました。(右参照)

その中の『少しだけ』について「何に対しても言える事だが、最初からあまり多くを欲しがらない、地道に進んで行く事を願うならば少しだけ心をかけよ、少しづつを積み重ねれば、時を重ねて行くうちに確かな力となる。少しだけ仕事のやり方を変えてみるだけで物の見方は随分変わってくる。

意志を強く持つのと同じくらいに応変できる柔軟さを身につけたい。これか

自分一人の力が

誰かを幸せにする

特に皆様方は、尊い命を守りながら、活動されています。

皆様方一人の力がやはり次に繋がっていきます。それは素晴らしい事です。自分一人をもっともっと大事に考え、また自分一人の力が誰かを幸せにするかもしれません。だからこそやっ

送迎実態について

ボランティアさんに聞く

引き続き、「送迎実態についてボランティアさんに聞く」と題して、意見交換会に入りました。

安心、安全第一の

移送支援を心がける

初めにNPO法人通院介護支援センター「ほほえみながさき」の北川 修理理事長より「取り組みは、安全第一の移送支援を心がけると共に人に対する優しさが大事だと思います」と述べられました。

続いて「ほほえみ諫早」

本田武久理事長より「ボランティアをする際に福祉有償運送運転協力者研修を受けないと活動が出来ないのがかなりの障害となつていきます」と話されました。

次に「ほほえみ佐世保」石田光俊理事より「今後は、腎友会の会員と、送迎回数を増やす事に専念をしたい」と述べられました。

また通院支援センター「ふれあい」南川正一事務局長より「理事一同一丸となつて患者さんの手助けを真っ当しています」と話されました。

市内各団体の

問題を共有

続いて通院介護センター「さわやか」高原由美事務局長より「北九州市には福祉有償運送団体が九団体あり、年に一回意見交換会を行っています。各団体の問題点を出し合い、共有しています。また、ボランティアさんの高齢化や飲酒撲滅などの

意義深いものになると感じている

NPO法人通院介護センター「さわやか」

副理事長 岡 俊一

「ステップ福岡」主催の三県合同研修交流会に出席させていただきました。

個人的には久しぶりの参加の感がありました。福祉有償運送に尽力されてこられた皆さんが、変わらずお元気にご活躍されている姿に触れ大変嬉しく思いました。

福祉有償運送は、これまで紆余曲折を経て現在にいたっています。道路運送法の法令の下、各事業所が培ったノウハウを生かし、どの事業所も重大な事故の発生はありません。運営協議会の回数も重ね



報道があり、昨年の十月より、活動報告書の項目欄に飲酒の有無と体調管理を加えました」と報告がありました。

雨降りの車椅子の

対応は？

次に「ステップ福岡」の

「雨降りの時、車椅子の方の対応が本当に大変ですが皆さんのような対応をされていますか」と質問がありました。

大きな「ゴミ袋や」

「コンビニ」の袋を

用意する

国土交通大臣認定講習実施団体である「ほほえみながさき」の北川理事長より「講習時には、いつもボランティアさんに、大きなゴミ袋を最低二枚用意して下さいとお願いします。なぜかというときに雨が降った時にゴミ袋の横を裂いてそれを利用者さんの頭から被せてあげると濡れないからです。

それから、コンビニの袋を三枚用意すると便利だと思います。それは、接触感染を防ぐ為です。袋に手を入れたらゴム手袋代わりになります。もう一枚は袋の持ち手を縫うと紐の変わりになります。それで、止血してあげる事が出来ます。あと一枚は患者さんが透析後、血圧が下がって、具合が悪くなった時に使う事ができるからです」と回答がありました。

また、「ふれあい」の中島理事長より保険について質問があり、北川理事長より「ボランティアさんがケ

ガをされた時の為に社協のボランティア保険や利用者の方には通院送迎支援保障に加入しています」と説明がありました。

補足として「さわやか」の山田理事長より「法律的には無効だと思いますが『さわやか』では事故が起きた時にボランティアさんの保険の範囲以内でしか保障が出来ない事を利用者の方に確認証として提出していただいています。ボランティアさんも安心して送迎が出来ていると思います」と話されました。

時間がある限り、各事業所の問題や悩みを出し合って、話し合いました。

休憩を挟み、第二部の交流会に入りました。

初めに「ステップ福岡」の野見山隆副理事長より、乾杯の挨拶がありました。

久しぶりに会った仲間と食事をしながら、交流やアトラクションを楽しみました。

最後に、次回開催地団体である「さわやか」の山田理事長より、「各事業所の事務局やコーディネーターのスキルアップの為の研修会を今、計画をしています。来年、北九州市でお待ちしております」と挨拶し、十三時四十分閉会しました。